

少しずつ秋らしい季節になってきました。この季節ならではの美味しい味覚も出てきていますね。

新型コロナウイルス感染症についても、ワクチン接種が広がり、全国的に緊急事態宣言やまん延防止措置は解除されて、まだまだ予防や注意も必要になりますが、出来ることや楽しめることも増えてきているかもしれません。

今回は日々状況が移り変わるコロナ禍の過ごし方について参考になるイソップ童話を紹介したいと思います。

～アリとキリギリス～

夏の間、アリたちは冬の食糧を蓄えるために働き続けていました。

一方でキリギリスは、ヴァイオリンを弾き、歌を歌って過ごしています。

やがて冬が来て、キリギリスは食べ物を探しますが見つからず、最後にアリたちに乞い、食べ物を分けてくれるよう頼みました。

するとアリは、「夏には歌っていたんだから、冬には踊ったらどうだい？」と食べ物を分けることを拒否しました。

キリギリスはアリの家の前で、そのまま飢え死んでしまいました。

皆さんが知っている“アリとキリギリス”は、ちょっと違うかもしれません。日本では、結末が残酷だということで、最後にアリがキリギリスに食料を分け与え、キリギリスは真面目に働くことの大切さを知るという結末になっていることが多いでしょう。

この童話は、“ピンチはチャンス”という言葉を紹介する時によく使われます。夏の暑い大変な時期に頑張っていけば、後で充実した結果が待っている、というわけです。また夏の楽しい時期ではあるが、遊び呆けずに我慢してコツコツ努力しようという意味もあります。

しかし、夏にキリギリスなどの虫の音が聞こえないのも寂しいものです。昼には蝉が鳴き、夜にはキリギリスや鈴虫たちの声が、夏の雰囲気を作ってくれています。そう考えると、アリが夏にコツコツ食料を貯めることも大切ですし、キリギリスが夏に一生懸命歌うことも大切に思えます。

この少し落ち着きを見せるコロナ禍においても、私たちはちょっとした選択肢に直面します。友だちたちと遊びに出かけよう、食事に出かけようという気持ちが強くなっている人たちもいるでしょう。一方で、ここで気を緩めてはいけない、より一層自粛した方が安心だと思う人もいるかもしれません。

前者はキリギリス、後者はアリのようにも見えます。

結論はどちらも大切だということです。

大学生という時期にしか体験できない、仲間との交流も大切です。

また、身体の健康に気を付けることも大切です。

どちらが良くて、どちらが悪いということではありません。

むしろ、良い-悪いという価値判断によって人々が分断したり、敵対したりすることがピンチであり、そこには新たなチャンスは生み出されません。

自分の身の回りや将来にあるピンチは何か、また自分にとってチャンスとなるような可能性はどんなものなのか、しっかり考えて選んでいく必要があります。

そういう意味では、ピンチはピンチになり得るし、チャンスはピンチになる前から隠れているかもしれません。

コロナに限らず、私たちは色々な選択肢の前に立たされます。自分が選ぼうとしているものが、周りとは違う時もあるでしょう。総合相談室では、あなたがどのような選択をしたいと思うのか、一緒に考えたいと思っています。

専任カウンセラー 後藤龍太